

誰もが人間として生きていくうえで 侵すことのできない当然の権利

山都町には、隣保館が設置されていますがその目的や活動内容を紹介します。

隣保館とは

隣保館は、被差別部落及びその周辺地域の住民に対して、生活上の各種相談事業をはじめ社会福祉等に関する総合的な事業及び国民的課題としての同和問題に対する理解を深めるための活動を行い、もって地域住民の生活の社会的、経済的、文化的改善向上を図るとともに、同和問題の速やかな解決に資することを目的としています。

福祉の向上や人権啓発のための、住民交流の拠点となる地域に密着した、人権と福祉のセンターとして位置づけられています。

隣保館の歴史

日本の隣保事業は、19世紀後半イギリスで誕生したセツ

ルメントの影響を受け、明治後期にスラム地区対策として民間の社会事業家によって設置されたことに始まります。そして、被差別部落に隣保館が設置されたのは、1918(大正7)年の米騒動や1922(大正11)年の全国水平社の結成によって、部落問題が広く重大な社会問題として認識されて以降のことです。隣保館の歴史を見ると、貧困問題や社会的、地域的課題にその地域とともに問題解決に対応する活動として行われてきました。1965(昭和44)年の同和对策審議会答申後は同和問題解決に向けた地域のコミュニティセンターとして、本格的設置が提起されてきました。

現在、全国の隣保館は951館ですが、熊本県には19館が設置されています。 開設当初より休日開館を実施しており、地域住民の相談件数も年間200件以上に上っています。最近が高齢化に伴って、生活上の相談や健康面についての相談が多く、また深刻な不況の影響から就労の相談も数多く寄せられています。

山都町立隣保館の事業内容

当館では、開設以来地域住

民の生活実態を定期的に調査把握し、また生活環境や福祉、健康、教育等の各種相談事業、生活改善及び社会福祉等の事業を通じ、同和問題解決のために行政の第一線の機関としての役割を担ってきました。

相談事業

開設当初より休日開館を実施しており、地域住民の相談件数も年間200件以上に上っています。最近が高齢化に伴って、生活上の相談や健康面についての相談が多く、また深刻な不況の影響から就労の相談も数多く寄せられています。

相談を受け、館のみでは対応できない事項については、関係行政機関や各種団体等との連携を図り、速やかな問題の解決に努めています。

保健・福祉に関する事業

当時、劣悪な生活環境のもとで暮らさざるを得なかった住民の健康上の課題は、生活実態調査等により明らかにされてきました。隣保館としても、役場や教育委員会との連携をはかり、健康相談や健康教室、料理教室等を実施しながら生活改善向上をめざしてきました。

広報・啓発活動

毎月1回と随時お知らせ版として、館だよりを発行して

います。また、町広報誌の1ページを使って「人権シリーズ」として、その時々の人権問題について記事を掲載しています。この記事は、広報人権委員会が担当していますが、委員会のメンバーは隣保館と生涯学習課、企画政策課及び総務課の各関係係員で構成されています。

児童館の活動

隣保館は、児童館を併設しています。児童館は、「子ども解放の拠点」として、差別を見抜き、差別を許さない明るくたくましい児童の育成を目的としています。子どもたちの人権を守ることで、未来を生きる子どもたちに人権の尊さを伝え、おかしいことはおかしいと言える子どもたちの育成に努めています。

終わりに

隣保館は、相談事業や保健・福祉、隣保館だよりやチラシの配布、町広報誌への継続的な掲載、行政職員や教職員、各種団体等の現地研修等、教育や啓発活動の積極的な取り組みを通じ、同和問題の解決に向けた第一線の役割を担っています。

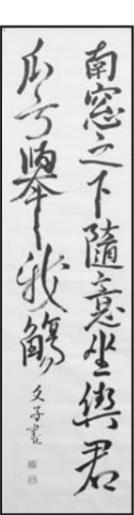
てきました。このような取り組みの結果が、地区住民の生活改善や住民全体の人権意識の向上等につながってきています。

しかし、地区住民の生活実態や、住民の部落差別意識の解消という面からみると、不安定就労等の実態や、差別事件・事象がまだ後を断っていないという現実があるように、まだまだ大きな課題が残されています。

生活実態改善事業や相談事業等の基本的な隣保館事業を実施するとともに、地区内外の住民相互間の交流や理解を深めることにより、隣保館を利用する住民が差別解消への主体となっていくようにしていかなければなりません。そのためにも今後さらにこれまでも取り組んできた事業に、工夫を加え内容を充実させながら、究極の目的である同和問題の速やかな解決に努めていく必要があります。

隣保館が、周辺地域を含めた地域社会全体の中で、「福祉と人権の町づくりセンター」として信頼される館となるように、今後より一層、地域社会に密着した総合的な活動を展開していきます。

書道



和光教室書道部の宮谷文子さん(鶴ヶ田) 作

季節のうた

- 馬見原酔山会 稲穂らごとく酔を重ねたし 渡辺 勝子
絵日記も今もあさがほ赤と青 畑野フミヨ
露草のあと故里の海のをと 岩永 周子
やまなみの会 「山脈」 本田 七郎
汗流し働き充実感のあり 岩村ヨシ子
花さびた咲き継ぐ野路の空青し 赤澤富美子
我が母校夏の甲子園行き相む 小野 紀子
何もかも忘れられは畑仕事老いても忘れたきこと 田代 エミ
鷺の五羽青田の横の小川にて小魚唾えずくに飛び立つ 今村 芳子
ねんねこに背負われ育ちし孫娘男子二人の母親となる 菊池 幸子
八月の戦さ語り部杖をつき 西田えい子
八十路にも学ぶことあり夏季講座 菊池 成河
亡き父の語りつくせず原爆忌 平川 竜
清和短歌会 誇々と大いなる論議もなく居酒屋の夜友と更けゆく 渡辺 辰男
七夕で墓掃除する御先祖お礼参りに墓にお花を 梶原 公希
陽の目みすグチも言わずに足の裏桃む八十路を湯舟にいやす

交通標語

- 標識は とっても大事 まもろうね 高本 湧斗(矢部高校1年)
守りたい 自分の命と交通ルール 佐野 眞由美(一般)

山都町の人口 (平成27年9月30日現在)
男 7,829人 (-3)
女 8,418人 (-3)
計 16,247人 (-6)
世帯 6,680戸 (21)
※( )は前月比
※最高齢は106歳 [女性1人]
※平成27年9月の出生者数 7人
※平成27年9月の死亡者数 18人

編集後記

カレンダーも10月に入り、「秋」真っ只中になりました。最近朝晩が冷え込み始めましたので、みなさん風邪にはくれぐれも注意してください。
今月の広報やまとはものすごく大変でした。写真を撮りすぎてしまいどれを使うか悩んで悩んでどうにか発行までたどり着きました。
全部の写真を載せることができませんでしたが、10月号も最後まで読んでいただけたらうれしいです。(椎木)



山都町観光案内所
ギャラリー喫茶
ルポン ☎72-1054
(営)9:30~17:30 定休日:毎週水曜日、年末年始
〒861-3513 熊本県上益城郡山都町下市158
『第3回四季の爽風展』
出展者:五嶋カツ工、甲斐しず子、藤本咲由紀
期間:平成27年10月1日(木)~10月31日(土)まで
水彩、パステル、油彩など、3人でおのの約10点ほどずつ展示します。